

●家族から多機能型精神科診療所に期待するもの

((公社) 全国精神保健福祉会連合会〔みんなねっと〕理事長) 本條義和

本條義和 (ほんじょう よしかず)

【略 歴】

平成12年3月	しらさぎ家族会を立ち上げ会長に就任
平成18年4月	公益社団法人 兵庫県精神福祉家族会連合会
平成26年6月	公益社団法人全国精神保健福祉会連合会理事長
平成27年2月	ひょうご障害者福祉協同組合を設立し理事長に就任 以上

精神科入院医療中心から地域医療への大きな流れを否定する人は少ないと思いますが、現実には遅々として進んでおりません。

その原因は居住施設をはじめとする社会資源の少なさを指摘する人もいます。もちろんそれも一つの大きな要因でしょうが、それだけでなく医療と福祉の連携がうまくいっていないことも起因しているのではないかと思います。その点、多機能型精神科診療所には大きな期待を抱いています。というのも、本人の回復には、単に医療だけでなく福祉を含めた多職種で多機能型支援の実践が効果を発揮すると思われるからです。

また、精神科訪問看護等アウトリーチによる支援は、本人の回復にとって更なる効果があると思います。

ところで、みんなねっとではその設立時から唯一の家族の全国組織として、真の家族支援を目指し、さまざまな取り組みをしてきました。もちろん、その以前も多くの家族会で行われている家族会活動そのものが家族による家族支援といえるとは思われます。

まずみんなねっととして取り組んだことは家族の実態を知ることでした。全国の家族会員を対象とする全国調査を実施したのです。その結果「必要な知識や情報が得られず情報から孤立し、社会からも孤立し、病状が悪化した時も適切な支援が受けられないという支援からの孤立の3つの孤立に苛まれている家族の実態がより明確になりました。そこで、「家族に対する訪問型サービス」をはじめ7つの提言をしました。

そのような中、英国のバーミンガム地方でファミリーワークという家族支援技術が開発され実践されていることを知りました。現在メリデン版「訪問による本人を含む家族全体を家族ととらえ支援する家族支援技術の日本導入を目指しています。しかし、とても、弱小組織のみんなねっとだけで取り組める事業ではなく苦慮しています。そのほか、みんなねっと設立以前からの取り組み、家族による家族支援、たとえば家族相談、家族による家族学習会等も重要だと思います。ぜひ、多機能型精神科医療アウトリーチに加え家族支援にもご配慮いただきますようお願いいたします。